

2022 年 8 月 4 日

報道関係者各位

株 式 会 社 IHI
三井不動産株式会社

綾瀬スマートインターチェンジに隣接、「MFLP 東名綾瀬」が竣工 国内物流施設初、官民学連携により屋上にアルミデッキヘリポートを設置

本リリースのポイント

- 綾瀬スマートインターチェンジ隣接地に、IHI と三井不動産が共同開発した「MFLP 東名綾瀬」が竣工。
- 綾瀬市との協定締結、東海大学との連携により、物流施設では国内初※1 のアルミデッキヘリポートを屋上に設置し、ドクターヘリや消防ヘリによる救命救急に貢献。
- 施設内では IHI 主導で入居テナントに対するマテリアルハンドリング等の機械化を促進し、省人化に寄与。
- 建物デザインはオーストラリアの Jackson Teece による地域環境に配慮した特徴的なデザインを採用。

株式会社 IHI(所在:東京都江東区 代表取締役社長 井手博)と三井不動産株式会社(所在:東京都中央区 代表取締役社長 菰田正信)は、共同事業として開発を進める神奈川県綾瀬市所在の「MFLP 東名綾瀬」が来る 2022 年 8 月 14 日に竣工しますのでお知らせいたします。



＜MFLP 東名綾瀬 外観＞



＜アルミデッキヘリポート＞

※1 2022 年 7 月 28 日時点、エアロファシリティ(株)調べ

1. 2021 年 3 月末開通の「綾瀬スマートインターチェンジ」隣接、抜群の交通アクセス

「MFLP 東名綾瀬」は、東名高速道路「綾瀬スマートインターチェンジ」に隣接の大変希少性の高い立地に位置しております。都内へのアクセスのみならず、圏央道を活用した関東圏広域への配送に加え、東名高速道路による西日本への配送もカバーし広域物流へも対応可能であり、物流施設として優れた立地となっております。

2. 国内物流施設初、官民学連携によりドクターヘリポートを設置し救命救急に貢献

「MFLP 東名綾瀬」は、敷地面積：約 27,000 m² 延床面積：約 61,000 m²、各階フロアは約 15,000 m²の施設規模となります。施設屋上には国内物流施設では初となるアルミデッキヘリポートを綾瀬市との協定締結により設置し、綾瀬市消防、東海大学医学部付属病院高度救命救急センターと連携いたします。

綾瀬市消防は災害のない安全で安心して暮らせるまちづくりを目指しており、東海大学医学部付属病院高度救命救急センターは神奈川県全域および山梨県南部の救命救急医療に貢献しています。「技術をもって社会の発展に貢献する」IHI と「街づくりを通じて社会課題の解決を推進する」三井不動産とともに、官民学が連携し、今回のヘリポート設置に至りました。

2022 年 7 月 28 日に施設屋上にてドクターヘリの離発着訓練を実施済みであり、稼働は 2022 年 8 月中旬を予定しております。平時はドクターヘリ等による救命救急、災害時には支援人員・支援物資等の防災拠点にもなる拠点として活用いただき、物流施設の開発を通じて地域の救急医療体制の向上等に貢献してまいります。



＜アルミデッキヘリポート＞



＜ドクターヘリ訓練の様子＞

3. 入居テナントに対するマテリアルハンドリング等の機械化を促進

「MFLP 東名綾瀬」では IHI グループ会社の株式会社 IHI 物流産業システム協力のもと、入居テナントに対し、マテリアルハンドリング等の機械化提案を実施。テナントニーズに合わせ、機械化導入による省人化に寄与いたします。



＜テナント専有部＞

4. 周辺環境と調和した特徴的な建物デザイン

建物外壁デザインは、オーストラリアのデザイン会社 Jackson Teece による周辺環境と調和した特徴的な建物デザインを採用。南東面は綾瀬市の木に選定されている紅葉をモチーフとし、北西面は青空と一体感を醸成することで綾瀬スマートインターチェンジ玄関口にふさわしい、綾瀬市を象徴するデザインをモチーフとしました。西側共用部には富士山を一望できる開放的なラウンジ空間を創出しました。また、環境に配慮し、屋上には太陽光パネル(コーポレート PPA 事業を予定)を設置し、CASBEE(建築環境総合性能評価システム)A クラス、DBJ Green Building 認証 5 スターを取得予定です。



＜綾瀬スマートインターチェンジ近接＞

＜南東外壁面には綾瀬市の木「紅葉」をモチーフにしたデザイン＞

【施設概要】

名 称	三井不動産ロジスティクスパーク東名綾瀬(MFLP 東名綾瀬)
所 在	神奈川県綾瀬市小園字下原 720-1 他
敷地面積	27,052.5 m ²
延床面積	61,441.94 m ²
規模・構造	地上 4 階建て・S 造・耐震構造
設計者・施工者	株式会社銭高組
着 工	2021 年 3 月 16 日
竣 工	2022 年 8 月 14 日

【位置図】



【各社概要】

■株式会社 IHI の不動産開発事業について

IHI グループの保有不動産のポテンシャルを最大限に引き出すべく、全国の事業所・社宅跡地等を開発し、賃貸事業、分譲事業を展開してまいりました。造船工場跡地の豊洲では、都心最大級の再開発事業を主導しており、地域のまちづくり団体や企業と連携し、最新技術等を活かした持続可能なまちづくりを目指しております。また、バイオマス発電やメガソーラー発電事業を展開し、近年は東京都江東区の砂町地区での X フロンティアはじめとした首都圏での物流施設事業にも注力し、環境対応・社会貢献に取り組んでいます。

・IHI グループの ESG 経営

2020 年に発表した「プロジェクト Change」の力点である「ESG を価値観の軸においた社会・環境に配慮した適切な経営」に向けて、当社グループが考える ESG 経営と取組みを示しています。

2021 年 12 月には、その詳細について記載した「IHI ESG STORYBOOK」を発表しました。

<https://www.ihico.jp/csr/esg/index.html>

■三井不動産の物流施設事業について

三井不動産は、2012 年 4 月に物流施設事業部(現 ロジスティクス本部)を立ち上げ、物流施設開発に取り組んでおります。現在では、「三井不動産ロジスティクスパーク(MFLP)」を旗艦ブランドとして、「MFLP 船橋 I」や「MFLP 茨木」など、国内外で開発・運営施設 53 物件を展開しております。「ともに、つなぐ。ともに、うみだす。」を事業ステートメントとして掲げ、入居企業の皆さまの課題解決パートナーとして、多種多様なヒト・モノ・コトをつなげること、既存の枠にとらわれない価値づくりに挑戦してまいります。

<https://www.mitsufudosan.co.jp/>

・三井不動産グループの脱炭素社会実現に向けた取り組み

「脱炭素社会実現に向けたグループ行動計画」を策定し、推進しています。

<https://www.mitsufudosan.co.jp/corporate/news/2021/1124/>

・「三井不動産9BOX感染対策基準」について

新型コロナウイルス感染症対策として、グループ共通の「三井不動産9BOX 感染対策基準」を策定しており、当計画にも適用してまいります。

https://www.mitsufudosan.co.jp/corporate/news/2021/1001_01/

【SDGs について】

2015 年の国連サミットで採択された 2030 年に向けての国際目標「SDGs:持続可能な開発目標」。17 の目標と 169 のターゲットが定められており、様々な主体の連携による取り組みが必要となっております。

なお、本リリースの取り組みは、SDGs における 3 つの目標に貢献しています。

目標 3 すべての人に健康と福祉を
目標 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
目標 8 働きがいも経済成長も

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

